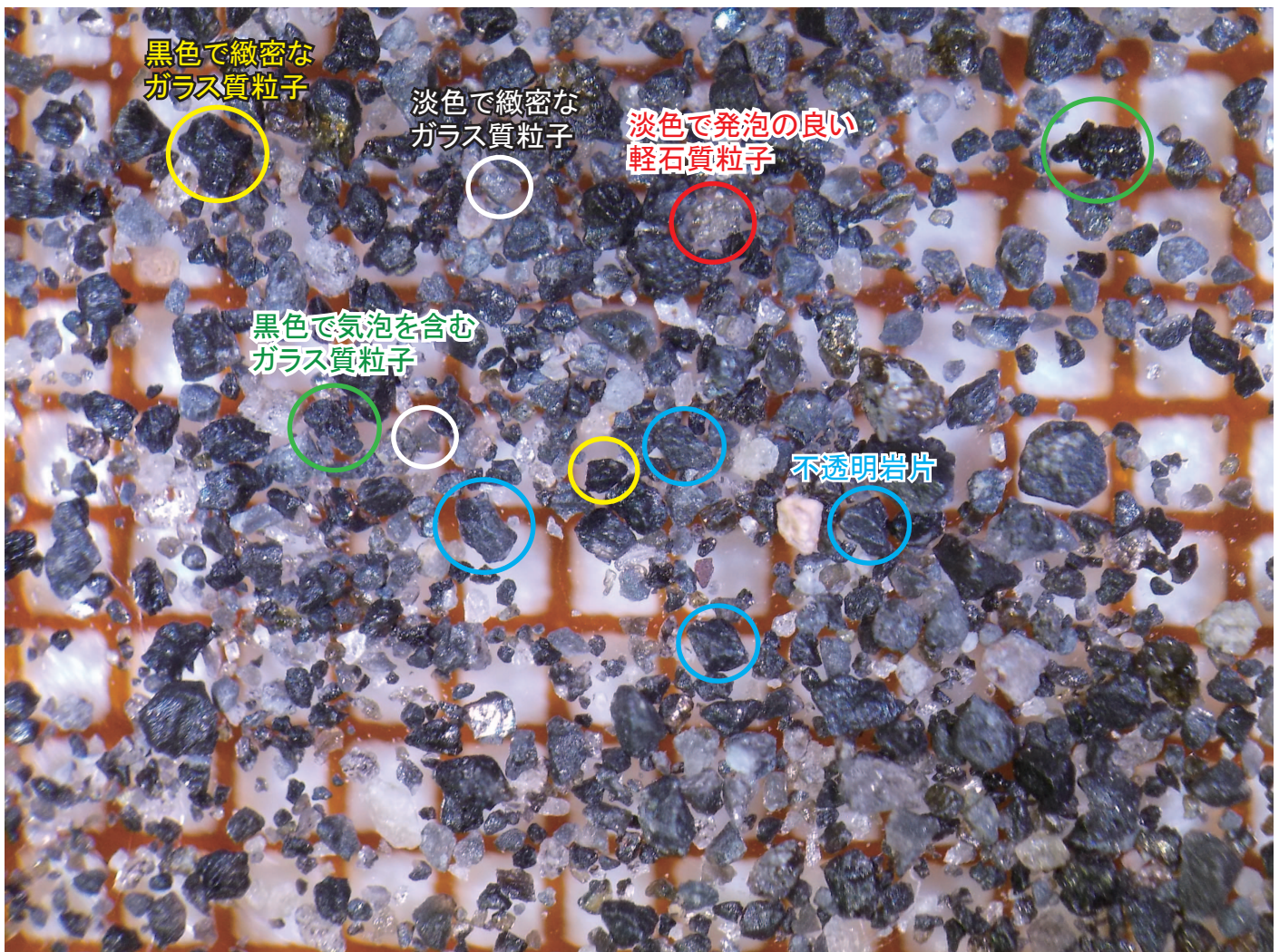


2013（平成 25）年 8 月 18 日 16:31
桜島（昭和火口）爆発の火山灰画像観察結果



試料採取：鹿児島地方気象台
採取場所：桜島・赤水展望台

<結論>

今回の噴火は、昭和火口の一連の活動では最も高い 5000m の噴煙高度であったが、その火山灰粒子は、最近の昭和火口噴火の火山灰と同様の構成からなり、特段の変化は認められない。

<観察結果>

- ・黒褐色～黒色を呈する、新鮮なガラス質粒子が多く認められる（写真の黄・緑の丸で囲んだもの）。
- ・それらの中には、気泡が認められるものもある（同、緑の丸で囲んだもの）。
- ・白～淡色を呈する新鮮なガラス質粒子も認められる（同、赤・白の丸で囲んだもの）。
- ・それらの中には、よく発泡した、いわゆる軽石質粒子も認められる（同、赤の丸で囲んだもの）が、ごく微量である。

以上はいずれも、マグマ由来の粒子と思われる。
いずれもブロック状の粒子が多く、発泡した粒子は少ない。

また、不透明岩片が従来に比べてわずかに多いように見られる（同、青の丸で囲んだもの）。